

# 論壇

## 世界経済は大荒れ状態

今年に入って、世界経済は大荒れ状態だ。中国経済をはじめとした新興国経済の先行きに投資資金は警戒心を高めている。石油や天然ガスに流入していた膨大な資金がそれから逃げようとしている。それが結果的に、新興国通貨や石油価格の暴落を引き起こしている。

それだけにとどまらない。市場は全面的にリスクオフの状態となっている。リスクオフとは市場関係者がよく使う用語だが、要するにリスクのある資産から逃げようとする心理が市場全体に広がって

伊藤 元重

東大教授(国際経済学)

いる状況を指している。

株式市場もリスクオフで売りが続き、世界中の株価はどれも大幅に値を下げている。石油価格の下落で財政状況が厳しくなっている産油国が手持ちの株を売りに出しているとも言われている。先進国の投資資金も、大幅に値崩れを続ける株式市場の前で

## グローバルリスク

は、売りを強めるしかない。その結果、株価はさらに下がることになる。

多くの資金は、当面のリスクを避けるため、安全資産と言われる日本や米国の国債に逃げ込んでいる。市場関係者が「質への逃避」と呼ぶ動きだ。質とはリスクの少

ない国債などを意味する。株や資産に向かつていた資金が、国債にどりあえず逃げ込もうとしている。その結果、日本や米国の長期国債の金利は非常に低い水準になっている。日銀がマイナス金利政策をとったことも影響しているが、それがなくても超低金利状況であった。

ない。市場の動揺が収まるのを待つしかない。

デフレからの脱却を目指す日本経済にとっては、こうしたグローバル経済の流れは困ったものだ。株価下落や中国経済の減退などが、日本国内の市場心理に大きなマイナスの影響を及ぼすことを警戒しなくてはならない。その上で、経済再生の政策の実行のスピードをあげていく必要がある。

## 改革実行にスピードを

経済再生には奇策はない。経済を適切に刺激して需要を喚起すると同時に、成長戦略によって潜在成長力を高める必要がある。そして、社会保障制度を改革していくことで、国民が将来に不安を持つ

ことがないようにしていかない。日本がこれまでそうした政策をしてこなかったわけではない。ただ、その実行のスピードが遅すぎるのだ。世界的な危機の時代だからこそ、こうした改革のスピードを速めなくてはいけない。

なかなか景気が回復しない日本経済ではあるが、この数年で成果がなかったわけではない。労働市場は大幅に改善し、有効求人倍率などでみた雇用状況は、過去23年で一番よい状況だ。企業の業績も大幅に改善している。政府の財政赤字も少しずつ縮小している。こうした成果をさらに広げていくところが、グローバル市場から来る不安感を払拭する最良の手段であるはずだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。